

公明党の自立路線時代(2)

平野 貞夫
元参議院議員

「衆議院事務局」の刊行

2020 (令和2) 年12月、「衆議院事務局 国会の深奥部に隠された最強機関」(白秋社) というタイトルで出版した。コロナ禍の年末年始であったが、年明けにはお陰様で再版となった。政治の劣化が極限となった事態に、政治のあり方に関心を深めてもらいたいものだ。

本書は私が衆議院事務局に勤務した33年間で、憲法違反が大好きな自民党にどんな対応をしたか、その代価を挙げて政治の黒衣として生きた証しを記したものである。さらにその発想をもって、現下の安倍・菅政治に対して「私が事務局にいれば、こうする」という大胆な提言を行った。

「まえがき」で、菅義偉首相の「カムフラージュ内

閣」の闇。序章で、安倍晋三前首相の「クーデター」の章を設けた。我が国の政治をこのような表現で描写しなくてはならなくなった原因のひとつが、創価学会を背後にした公明党の変節にあったことを証明するのが本稿の狙いである。創価学会と公明党が、新型コロナのパンデミックの中で、日本政治の劣化をオーバーシュートさせるのか。半グレとなった自民党と決別できるか。良識ある日本人は息をころして成り行きを見つめている。このような思いで刊行したものであることを理解されたい。

小沢一郎議運委員長時代の公明党

1983 (昭和58) 年12月、自民党の人事で小沢一郎氏が衆議院運営委員長に就任する。この年の10月にロッキード事件の第一審で、田中角栄元首相が懲役

4年の実刑判決を受けたことで、中曽根政権がより強い「田中支配」を受けるようになった。その結果の人事の代表例だった。小沢議運委員長は、1985 (昭和60) 年12月に自治大臣に就任するまでの2年間、野党の「田中元首相議員辞職要求」の混乱の中、国会運営で苦勞を重ねる。この2年間での苦勞が小沢という政治家を大きくしていった。それは公明党との交流を通じてであり、同時に公明党も議会政治のあり方を理解し、独自路線を選んでいくようになる。

この時期の政治課題は、ロッキード事件とダグラス・グラマン事件による国民の政治不信を解消するため、「政治倫理制度」を整備することであった。小沢議運委員長という人事は、田中元首相の指示があったのである。自民党田中派は田中元首相に不利にならない制度を期待した。ところが肝心要の小沢議運委員長は、憲法の原理を生かす公正な制度づくりを目指した。その原因に公明党の要望があった。

当時の公明党議運理事が権藤恒夫氏で、竹入義勝委員長の直接の指示により、議運委員会が政治倫理制度の草案などをつくる事務責任者の私が酷使されるわけだ。権藤さんは1984 (昭和59) 年12月に国対委員

長に就任する。この1年間の小沢・権藤そして私の濃厚な人間関係が、その後の自民党と公明党の関係をはじめ、自民党の分裂から非自民細川連立政権成立への流れの原点となる。

公明党は権藤理事の後任に平石磨作太郎氏を就任させる。この平石氏は私と同郷の高知県出身で、高知市役所において福祉政策で知られる厚生部長を務め、高知全県から5回連続で衆議院議員に当選した人物である。平石氏が高知市職員として坂本昭市長に信頼されて活躍し、高知市民に親しまれていた。坂本市長は60年安保闘争の樺美智子事件で、社会党の参議院議員の医師として検死に立ち会った人物であった。また医師の仲間として私の父と親しく、私は平石氏を以前からよく知っていた。おかげで公明党での私の評価が上がり有難迷惑気味であった。

平石理事は私を使って、衆議院長公邸に「坂本龍馬」の陶製の像を寄付して、高知のPRをしたこと。大変な法哲学の理論家で、ちょうど小沢―権藤ラインでまとめた「政治倫理制度草案」の中に、「政治倫理綱領」という宣言文がトップになっていた。これを「平野さん、『綱領』とは、法の上の条理のこと。これはえ

らいことだ」と、大声を出されたことを記憶している。私の1992（平成4）年の参院高知選挙区選挙の時は引退されていたが、大変にお世話になった。逝去されて高知市での葬儀に参列したが、この時に初めて創価学会の葬式を体験し、宗教儀式について学んだ。

金丸幹事長の招きに悩む権藤国対委員長

1984（昭和59）年12月に、権藤さんは国対委員長に就任する。竹入委員長が委員長を辞任して矢野絢也氏に代わる1986（昭和61）年12月、2年間務めて市川雄一氏に交代した。書記長は矢野絢也氏の後継に大久保直彦氏が就任し、公明党の世代交代が行われる。自立路線が明確になる。

そこで権藤国対委員長が就任したばかりだったが、困りに困り悩みに悩んだ問題を私に持ち込み、知恵を出してくれと頼まれた問題を暴露しておこう。この話は墓場まで持つていくべき問題だが、当時の日本政治の実体を知る好例といえる。

権藤さんが国対委員長に就任するや、自民党の金丸信幹事長から就任祝いに招待されることになる。これ自体は恒例のことなので問題ないようだが、もうひと

はその時。……

権藤国対委員長の就任が12月の暮れだったので、年が明けて金丸・小沢による権藤就任祝いが行われた翌日、権藤さんの議員会館事務所に呼ばれた。机の上の紙袋に500万円入れてあった。そこで私が出した知恵は次のとおりだった。

「九州の伊万里焼の窯に創価学会員はいませんか。（友人がいるとのこと）その人物に頼んで日本橋の三越で、5〜600万円ぐらいの陶芸品を原価で買いなさい。それを金丸さんにお返しとして送りなさい。たぶん残りが出るでしょうから、その使い方は後で考えましょう」

2月になって、権藤さんに呼ばれ「伊万里の友人は壺を300万円で売ってくれた。金丸さんに届けると、奥さんが陶芸に凝っていて三越で600万円です売っていたのと同額で大喜びだった」とのこと。200万円をどうするかになり、100万円は親しい記者を集め、向島の料亭でどんちゃん騒ぎ。後の100万円は福岡県久留米市の福祉施設を経営している友人たちにカンパしたとのこと。後日談で、金丸幹事長が方々

つの先例は祝金を渡すという買収行為。これが自社55年体制でつくられた悪習だった。権藤国対委員長はそれを知っていたので、招待を断り続けていたようだ。

金丸幹事長は自分に当る小沢謙運委員長から要望すればと、作戦を変えて攻めることになる。盟友の小沢氏から言われて権藤氏は、「どうすればよいか」と私に相談を持ち込んだわけだ。その時の権藤さんと私の会話は次のとおり。

平野 小沢さんの顔を立って会いなさい。

権藤 祝金といって出されると断れない。

平野 貰いなさいよ。

権藤 公務員で立派に生きていると思つたが、何を言うのか（本気で怒る）。

平野 今の日本の政治で、そんなことでは動かせませんよ。知恵を出すんですよ。金丸さんがびつくりするような。

権藤 その知恵を教えてください。

平野 すんなり貰つて、金額にもよるが頭を使ってお返しをするんですよ。場合によっては貰った金額より値段の高いお返しとなると金丸さんがびつくりしますよ。とにかく貰つたら金額を教えてください。方法

で「権藤国対委員長にお祝金を渡したら、それ以上のお返しをした。こんな野党の政治家は初めてだ」と秘事をばらし、権藤さんホトホト困っていた。

竹入委員長退陣と中曽根死んだふり解散

1986（昭和61）年7月6日、衆参同日選挙となる。これは衆院議員選挙制度の定数配分が憲法違反であるとの最高裁の判決を受け、定数は正問題で衆院が大混乱し、それを中曽根首相が政治利用した選挙だった。自民党の総裁任期が、この年の10月で党規則を超えることから「解散はない」と、野党を騙し討ちにした選挙だった。

与党自民党も小沢自治大臣や宮澤喜一総務会長が反対で、公明党の竹入委員長も憲法違反だとして、権藤国対委員長とともに強い反対姿勢を示した。この時、矢野書記長が中曽根政権側と謀り、竹入委員長の退陣条件をつくつたとの見方があった。竹入委員長も世代交代の時期として、同年12月の党大会で公明党は新体制となる。この頃、竹入委員長から招かれ世話になつたと思ひ出話があったことを憶えている。